

介護職員が実習指導で困惑した実習生の姿勢・能力等の実態

—— 過去3年間のアンケート調査結果をもとに ——

静岡県立大学短期大学部

高木 剛

1. 緒言

特別養護老人ホームなど（以下、施設等）における介護実習で実習生の学修効果を高めるには、施設等の介護職員（以下、実習指導者等）、介護福祉士養成施設の実習担当教員、そして実習生の三者間の密な関わり（相互の関係性の構築）が不可欠である。近年、産業構造や就業構造の変化等により、職業人としての基本的能力の低下、未熟な職業観、希薄な進学意識など様々な課題を抱える学生が目立っていることが指摘されており¹⁾、実習指導者等が実習生の指導で困惑するケースは少なくないと思われる。実習指導者等が困惑する実習生の姿勢・能力等の実態（具体的内容や経年変化の傾向等）を明らかにすることは、実習指導者等はもとより実習担当教員にとっても、実習生が抱えている課題を把握することができるほか、実習時にそのような実習生に直面することを想定して事前に指導方法のシュミレーションを行うことができるなど、実習指導の対策に資する等の意義がある。

本研究に関する先行研究として、酒井・中澤他(2015)²⁾や細田・山口(2004)³⁾など、主として看護や理学療法等の医療分野で散見されるが、とりわけ介護福祉分野では先行研究の蓄積が極めて乏しく、実習指導者等が苦慮する実習生の具体的な姿勢・能力等の実態について把握しがたい状況である。

そこで、本研究では、効果的な実習指導の検討に資するため、介護福祉士実習指導者講習会（以下、実習指導者講習会）の受講者に対するアンケート調査（2014～2016年度）の結果をもとに、施設等の実習指導者等が困惑する実習生の姿勢・能力等の具体的内容や経年変化の傾向等を明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法

実習指導者講習会を主催するA介護福祉士会の協力を得て、過去3年間（2014～2016年度）に実施した当講習会の受講者（計851名）に対するアンケート調査（質問紙法）の回答結果を、それぞれの内容に即したカテゴリーに分類し、それらを単純集計した。そして、実習指導者等が困惑する実習生の姿勢・能力等の具体的内容および経年変化の傾向等を整理した。

3. 倫理的配慮

本研究でアンケート調査（質問紙法：2014～2016年度）の結果を使用すること等について、事前にA介護福祉士会をとおして実習指導者講習会の受講者に対して口頭で説明し、同意を得た。なお、同意を得られない受講者がいた場合には、当該受講者には質問紙を返却し、回答内容は集計に反映しない等の対応をした。

4. アンケート調査結果の概要

実習指導者講習会の受講者（2014～2016年度：計851名）から回収したアンケート調査票を集計したところ、計569名から有効回答票を得た。

（1）有効回答者の基本属性（2014～2016年度の合計）

①性別（男女比）

有効回答者（569名）の性別（内訳）は、男性252名、女性317名で、男女比は4：5であった。

②勤務先の種別

有効回答者（569名）の勤務先の種別（内訳）は、介護老人福祉施設（296名）、介護老人保健施設（137名）、介護療養型医療施設（11名）、

通所介護事業所（46名）、訪問介護事業所（34名）、その他（34名）、無記入（11名）であった。

③勤務年数

有効回答者（569名）の勤務年数（内訳）は、3年未満（10名）、3～6年間（102名）、7～10年間（228名）、11～14年間（57名）、15～18年（91名）、19～22年間（11名）、22年間以上（47名）、無記入（23名）であった。

④実習指導に関わった経験年数

有効回答者（569名）の実習指導等の経験年数（内訳）は、3年未満（68名）、3～6年間（216名）、7～10年間（114名）、11～14年間（46名）、15～18年（68名）、19～22年間（0名）、22年間以上（11名）、無記入（46名）であった。

（2）各年度のアナケート調査の回答内容について

アナケート調査の回答内容（複数回答）から、①「実習姿勢」、②「実習記録」、③「コミュニケーション」、④「健康問題」、⑤「学校との連携」、⑥「その他」の6つのカテゴリーに分類された。以下、各年度ごとに、上記6つのカテゴリーごとの回答内容（ただし、2件以上の回答があったものに限る）を示す。

1）2014年度調査での回答内容

アナケート調査の回答者数（300名）のうち、213名から有効回答を得た。また、回答件数（複数回答）は513件だった。

①「実習姿勢」

実習姿勢に関する回答（267件）では、「職員から指示があるまで動かない（見ているだけ）」が37件で最も多く、次いで、「テレビを見ていたり、居眠りをする」（23件）、「実習の目的・目標が曖昧」（18件）、「指示又はアドバイスをしてもそのように行動しない」（16件）、「職員の問いかけに返事がない（反応がない）」および「挨拶をしない」（各14件）などの順であった（表1）。

②「実習記録」

実習記録に関する回答（96件）では、「日記のような記述（考察がない。感想ばかり等）」

が27件で最も多く、次いで、「何を言いたいのか（主張したいのか）わからない」（16件）、「誤字・脱字が多い」（11件）、「日本語がおかしい。文章になっていない」および「指導した内容と異なる記述をしている」（各6件）、「数行しか記述していない」および「提出期限を守らない」（各4件）の順であった（表2）。

③「コミュニケーション」

利用者とのコミュニケーションに関する回答（95件）では、「積極的に話さない。黙ったままている」が44件で最も多く、次いで、「友人と話すような言葉づかいをする」（16件）、「基本的なコミュニケーション技術が理解されていない」（10件）、「同じ利用者とはばかりコミュニケーションをとる」（8件）、「声が小さくて話の内容を聞き取りにくい」および「利用者に失礼なこと（不適切なこと）を言う」（各5件）などの順であった（表3）。

④「健康問題」

健康問題に関する回答（22件）では、「体調不良の訴えがある」が12件で最も多く、次いで、「精神上的の疾患・障害がある」（9件）の順であった（表4）。

⑤「学校との連携」

学校との連携に関する回答（9件）では、「実習に関する養成校側のフォロー（情報提供等）が乏しい」が6件で最も多かった（表5）。

⑥「その他」

その他の回答（24件）では、「実習生が職員よりも年上のため指導しづらい」が10件で最も多く、次いで、「実習指導の方法に悩む（的確な指導ができない）」（4件）、「実習生に異性の利用者の介助について指導しづらい」（2件）の順であった（表6）。

2）2015年度調査での回答内容

アナケート調査の回答者数（346名）のうち、230名から有効回答を得た。また、回答件数（複数回答）は558件だった。

①「実習姿勢」

実習姿勢に関する回答（305件）では、「職員

から指示があるまで動かない（見ているだけ）」が37件で最も多く、次いで、「自己判断で利用者の介助をする（車いす操作等）」（26件）、「挨拶をしない」（24件）、「実習の目的・目標が曖昧」（22件）、「テレビを見ていたり、居眠りをする」（18件）などの順であった（表7）。

②「実習記録」

実習記録に関する回答（96件）では、「何を言いたいのか（主張したいのか）わからない」が18件で最も多く、次いで、「日記のような記述（考察がない、感想ばかり等）」（17件）、「誤字・脱字が多い」（15件）、「提出期限を守らない」（7件）、「数行しか記述していない」（5件）などの順であった（表8）。

③「コミュニケーション」

利用者とのコミュニケーションに関する回答（90件）では、「積極的に話さない、黙ったままている」が43件で最も多く、次いで、「友人と話すような言葉づかいをする」（21件）、「同じ利用者とはばかりコミュニケーションをとる」および「会話が續かない、会話がすぐに終わってしまう」（各8件）、「不適切な表現を使う」（4件）の順であった（表9）。

④「健康問題」

健康問題に関する回答（34件）では、「体調不良の訴えがある」および「精神上的の疾患・障害がある」が各15件で最も多かった（表10）。

⑤「学校との連携」

学校との連携に関する回答（14件）では、「実習に関する養成校側のフォロー（情報提供等）が乏しい」が8件で最も多かった（表11）。

⑥「その他」

その他の回答（19件）では、「実習生が職員よりも年上のため指導しづらい」が14件で最も多かった（表12）。

3) 2016年度調査での回答内容

アンケート調査の回答者数（205名）のうち、126名から有効回答を得た。また、回答件数（複数回答）は308件だった。

①「実習姿勢」

実習姿勢に関する回答（145件）では、「職員から指示があるまで動かない（見ているだけ）」が27件で最も多く、次いで、「実習の目的・目標が曖昧」（17件）、「挨拶をしない」（15件）、「指示又はアドバイスをしてもそのように行動しない」（11件）、「自己判断で利用者の介助をする（車いす操作等）」（10件）などの順であった（表13）。

②「実習記録」

実習記録に関する回答（57件）では、「何を言いたいのか（主張したらいいのか）わからない」が17件で最も多く、次いで、「日記のような記述（考察がない、感想ばかり等）」および「誤字・脱字が多い」（各13件）、「提出期限を守らない」および「数行しか記述していない」（各4件）、「文字が汚い、書いてある文字が読めない」（3件）、「指導した内容と異なる記述をしている」（2件）の順であった（表14）。

③「コミュニケーション」

利用者とのコミュニケーションに関する回答（56件）では、「積極的に話さない、黙ったままている」が21件で最も多く、次いで、「友人と話すような言葉づかいをする」（14件）、「会話が續かない、会話がすぐに終わってしまう」（8件）、「同じ利用者とはばかりコミュニケーションをとる」（4件）、「雑談をしているだけ、利用者を理解しようとししない」（3件）の順であった（表15）。

④「健康問題」

健康問題に関する回答（14件）では、「体調不良の訴えがある」および「精神上的の疾患・障害がある」が各7件で最も多かった（表16）。

⑤「学校との連携」

学校との連携に関する回答（4件）では、「実習に関する養成校側のフォロー（情報提供等）が乏しい」が4件で最も多かった（表17）。

⑥「その他」

その他の回答（32件）では、「実習指導の方法に悩む（的確な指導ができない）」が9件

で最も多く、次いで、「実習生が職員よりも年上のため指導しづらい」（6件）、「注意したら親から怒りの電話等があった」（3件）の順であった（表18）。

5. 各カテゴリーにおける回答内容の傾向（経年変化）

過去3年間（2014～2016年度）のアンケート調査（質問紙法）の回答内容を比較したところ、いずれの年度においても、⑥「その他」を除く5つのカテゴリーに受講者の回答数による順位の違いは見られず、①「実習姿勢」が最も多く、次いで、②「実習記録」、③「コミュニケーション」、④「健康問題」、⑤「学校との連携」の順であった。

また、アンケート調査（質問紙法）の実施が2014～2016年度と、連続する3年間であったためか、各カテゴリーの内容においても各年度で大きな差は見られなかった。具体的には、①「実習姿勢」では、「職員から指示があるまで動かない（見ているだけ）」、「実習の目的・目標が曖昧」、「挨拶をしない」などが各年度とも上位を占めており、また、②「実習記録」では、「日記のような記述（考察がない、感想ばかり等）」、「何を言いたいのか（主張したいのか）わからない」、「誤字・脱字が多い」などが上位を占めた。また、③「コミュニケーション」では、「積極的に話さない、黙ったままである」、「友人と話すような言葉づかいをする」、「同じ利用者とはばかりコミュニケーションをとる」などが各年度とも上位を占めた。さらに、④「健康問題」では、「体調不良の訴えがある」、「精神上の疾患・障害がある」などが、そして⑤「学校との連携」では、「実習に関する養成校側のフォロー（情報提供等）が乏しい」が各年度とも上位を占めており、⑥「その他」としては、「実習生が職員よりも年上のため指導しづらい」が上位を占めていた。

他方で、回答件数は多くないが、①実習姿勢では、「実習時間にスマートフォンをいじっている」（2016年度：5件）、⑥その他では、「注意したら親から怒りの電話等があった」（2016年度：3件）などが見られた。

6. 結論

本研究では、効果的な実習指導の検討に資するため、実習指導者講習会の受講者（2014～2016年度：計851名）に対するアンケート調査（質問紙法：有効回答者数569名）から、実習指導者等が困惑する実習生の姿勢・能力等の具体的内容や経年変化の傾向等を明らかにすることを目的とした。その結果から、次のことが明らかとなった。

第一に、アンケート調査（質問紙法）での回答内容（ただし、複数回答）は、いずれも、①「実習姿勢」、②「実習記録」、③「コミュニケーション」、④「健康問題」、⑤「学校との連携」、⑥「その他」の6つのカテゴリーに分類され、過去3年間（2014～2016年度）の回答件数はいずれも①～⑤のカテゴリーの順で多かった。

第二に、各カテゴリーの内容として、①「実習姿勢」では、「受動的な態度」、「曖昧な実習の目的・目標」、「挨拶の無さ」に関することが多く、②「実習記録」では、「日記のような記述」、「文章の未熟さ」、「誤字・脱字」に関することが多かった。また、③「コミュニケーション」では、「消極的な態度」、「不適切な言葉づかい」、「特定の利用者との関わり」に関することが多く、④「健康問題」では、「体調不良の訴え」、「精神上の疾患・障害」に関することが多かった。さらに、⑤「学校との連携」では、「養成校のフォロー不足」が多く、⑥「その他」では、「実習指導のしづらさ」に関することが多かった。

第三に、各カテゴリーの内容は、過去3年間（2014～2016年度）で比較しても経年変化に大きな差は見られなかった。

他方、回答件数は多くないが、実習中のスマートフォンの使用や親からの怒りの電話など、新たな展開が見られた。

最後に、本研究の今後の課題として、少なくとも次の3つが挙げられる。第一に、実習指導者等が実習指導に関わった経験年数と困惑した実習生の姿勢・能力等に何らかの関係（相関関係）があるのか調査・分析することである。第二に、実習生の姿勢・能力に困惑した度合い（困惑の強弱）

について調査・分析し、実習指導の優先度を検討することである。第三に、引き続き、実習指導者等が困惑した実習生の姿勢・能力の具体的内容を

調査・整理し、例えば5年後または10年後にどのような変化または傾向が見られるか比較することである。

<引用・参考文献>

- 1) 文部科学省生涯学習政策局政策課：今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（中央教育審議会答申）。大学と学生，54-55，2011。
- 2) 酒井禎子・中澤紀代子他：看護学実習指導者が感じている指導上の困難と学習ニーズ。新潟県立看護大学紀要，第4巻，12-16，2015。
- 3) 細田泰子・山口明子：実習指導者の看護学実習における指導上の困難とその関連要因。日本看護研究学会雑誌，vol.27，No 2，67-75，2004。
- 4) 尾台安子・山下恵子：介護福祉実習に対する学生の意識と課題。松本短期大学研究紀要，第13号，1-9，2003。
- 5) 上山崎悦代：医療機関におけるソーシャルワーク実習教育に関する一考察－実習指導者へのインタビューを通して。日本福祉大学社会福祉論集，第126号，181-194，2012。
- 6) 川崎昭博：介護福祉教育における施設の実習指導について－養成校からみて積極的に連携がとれている介護施設の事例から。龍谷大学紀要，第476号，45-63，2010。
- 7) 川崎昭博：介護福祉教育における施設の実習指導について2－養成校からみて積極的に連携がとれている介護施設の事例から。龍谷大学紀要，第477号，64-82，2011。
- 8) 柴原君江：介護実習における記録指導の課題。人間福祉研究，第8号，1-14，2005。
- 9) 滝島紀子：学生の看護実践能力を育成するための看護基礎教育における課題－臨地実習指導者からみた臨地実習における学生の学習上の困難点から。川崎市立看護短期大学紀要，第15巻第1号，37-45，2010。
- 10) 高木剛：実習指導者養成の実際と今後のあり方。ふれあいケア，第20巻第8号，22-25，2014。

表1. 実習姿勢（2014年度）

N = 267

	内 容	件 数
①	職員から指示があるまで動かない（見ているだけ）	37
②	テレビを見ていたり、居眠りをする	23
③	実習の目的・目標が曖昧	18
④	指示又はアドバイスをしてもそのように行動しない	16
⑤	職員の問いかけに返事がない（反応がない）	14
	挨拶をしない	14
⑥	遅刻又は欠席が目立つ	12
⑦	職員又は施設の批判を言う	11
	自己判断で利用者の介助をする（車いす操作等） 介護の基礎的な知識・技術が身に付いていない	11
⑧	連絡しないで無断で遅刻又は欠席する	10
⑨	身だしなみが不適切（汚れた服、イヤリング等）	8
	資格取得のために実習をしていると言う	8
⑩	自分の考えを押しつける。思い込みがある	7
⑪	職員の話を理解していない	6
	指示したことを終えても職員に報告しない	6
	自信がない様子でオドオドしている	6
⑫	自分の興味のあることばかりを行う	5
⑬	メモをとらない	4
	指導中に突然泣き出す。落ち込んでしまう	4

注) 2件以上の内容のみ記載

表2. 実習記録 (2014 年度)

N = 96

	内 容	件 数
①	日記のような記述 (考察がない, 感想ばかり等)	27
②	何を言いたいのか (主張したいのか) わからない	16
③	誤字・脱字が多い	11
④	日本語がおかしい, 文章になっていない	6
	指導した内容と異なる記述をしている	6
⑤	数行しか記述していない	4
	提出期限を守らない	4

注) 2件以上の内容のみ記載

表3. コミュニケーション (2014 年度)

N = 95

	内 容	件 数
①	積極的に話さない, 黙ったままにいる	44
②	友人と話すような言葉づかいをする	16
③	基本的なコミュニケーション技術が理解されていない	10
④	同じ利用者とはばかりコミュニケーションをとる	8
⑤	声が小さくて話の内容を聞き取りにくい	5
	利用者に失礼なこと (不適切なこと) を言う	5
⑥	足を組んで利用者とは話をしている	2

注) 2件以上の内容のみ記載

表4. 健康問題 (2014 年度)

N = 22

	内 容	件 数
①	体調不良の訴えがある	12
②	精神上の疾患・障害がある	9

注) 2件以上の内容のみ記載

表5. 学校との連携 (2014 年度)

N = 9

	内 容	件 数
①	実習に関する養成校側のフォロー (情報提供等) が乏しい	6

注) 2件以上の内容のみ記載

表6. その他 (2014 年度)

N = 24

	内 容	件 数
①	実習生が職員よりも年上のため指導しづらい	10
②	実習指導の方法に悩む (的確な指導ができない)	4
③	実習生に異性の利用者の介助について指導しづらい	2

注) 2件以上の内容のみ記載

表7. 実習姿勢 (2015年度)

N = 305

	内 容	件 数
①	職員から指示があるまで動かない (見ているだけ)	37
②	自己判断で利用者の介助をする (車いす操作等)	26
③	挨拶をしない	24
④	実習の目的・目標が曖昧	22
⑤	テレビを見ていたり、居眠りをする	18
⑥	注意しても同じことを繰り返す	16
⑦	遅刻又は欠席が目立つ	12
	連絡せずに無断で遅刻又は欠席する	12
	突然、その場からいなくなる	12
⑧	何も質問しようとししない	11
⑨	職員の問いかけに返事がない (反応がない)	10
⑩	指導中に突然泣き出す。落ち込んでしまう	7
	不機嫌そうな態度をとる	7
⑪	職員又は施設の批判を言う	6
	身だしなみが不適切 (汚れた服、イヤリング等)	6
⑫	介護の基礎的な知識・技術が身に付いていない	5
	実習時間にスマートフォンをいじっている	5
⑬	指示内容を理解していない	4
	足を組んで椅子に座る。テーブルに肘をつく	4
⑭	メモをとらない	3

注) 2件以上の内容のみ記載

表8. 実習記録 (2015年度)

N = 96

	内 容	件 数
①	何を言いたいのか (主張したいのか) わからない	18
②	日記のような記述 (考察がない、感想ばかり等)	17
③	誤字・脱字が多い	15
④	提出期限を守らない	7
⑤	数行しか記述していない	5
⑥	指導した内容と異なる記述をしている	4
⑦	同じ表現が何度も使われている	3
	鉛筆で書かれている	3

注) 2件以上の内容のみ記載

表9. コミュニケーション (2015年度)

N = 90

	内 容	件 数
①	積極的に話さない。黙ったままである	43
②	友人と話すような言葉づかいをする	21
③	同じ利用者とはばかりコミュニケーションをとる	8
	会話が続かない。会話がすぐに終わってしまう	8
④	不適切な表現を使う	4

注) 2件以上の内容のみ記載

表 10. 健康問題 (2015 年度)

N = 34

	内 容	件 数
①	体調不良の訴えがある	15
	精神上的の疾患・障害がある	15

注) 2件以上の内容のみ記載

表 11. 学校との連携 (2015 年度)

N = 14

	内 容	件 数
①	実習に関する養成校側のフォロー (情報提供等) が乏しい	8

注) 2件以上の内容のみ記載

表 12. その他 (2015 年度)

N = 19

	内 容	件 数
①	実習生が職員よりも年上のため指導しづらい	14

注) 2件以上の内容のみ記載

表 13. 実習姿勢 (2016 年度)

N = 145

	内 容	件 数
①	職員から指示があるまで動かない (見ているだけ)	27
②	実習の目的・目標が曖昧	17
③	挨拶をしない	15
④	指示又はアドバイスをしてもそのように行動しない	11
⑤	自己判断で利用者の介助をする (車いす操作等)	10
⑥	何も質問しようとなない	8
⑦	連絡せずに無断で遅刻又は欠席する	7
	指示内容を理解していない	7
⑧	テレビを見ていたり、居眠りをする	6
	職員の問いかけに返事がない (反応がない)	6
⑨	指導中に突然泣き出す。落ち込んでしまう	6
	注意しても同じことを繰り返す	5
⑩	介護の基礎的な知識・技術が身に付いていない	5
	身だしなみが不適切 (汚れた服、イヤリング等)	3
⑩	介護は誰でもできるという認識をもっている	3

注) 2件以上の内容のみ記載

表 14. 実習記録 (2016 年度)

N = 57

	内 容	件 数
①	何を言いたいのか (主張したいのか) わからない	17
②	日記のような記述 (考察がない, 感想ばかり等)	13
	誤字・脱字が多い	13
③	提出期限を守らない	4
	数行しか記述していない	4
④	文字が汚い, 書いてある字が読めない	3
⑤	指導した内容と異なる記述をしている	2

注) 2件以上の内容のみ記載

表 15. コミュニケーション (2016 年度)

N = 56

	内 容	件 数
①	積極的に話さない. 黙ったままている	21
②	友人と話すような言葉づかいをする	14
③	会話が続かない. 会話がすぐに終わってしまう	8
④	同じ利用者とはばかりコミュニケーションをとる	4
⑤	雑談をしているだけ. 利用者を理解しようとしな	3

注) 2件以上の内容のみ記載

表 16. 健康問題 (2016 年度)

N = 14

	内 容	件 数
①	体調不良の訴えがある	7
	精神上の疾患・障害がある	7

注) 2件以上の内容のみ記載

表 17. 学校との連携 (2016 年度)

N = 4

	内 容	件 数
①	実習に関する養成校側のフォロー (情報提供等) が乏しい	4

注) 2件以上の内容のみ記載

表 18. その他 (2016 年度)

N = 32

	内 容	件 数
①	実習指導の方法に悩む (的確な指導ができない)	9
②	実習生が職員よりも年上のため指導しづらい	6
③	注意したら親から怒りの電話等があった	3

注) 2件以上の内容のみ記載